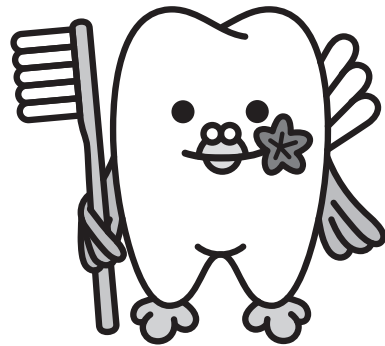


11月8日は いい歯の日



広島県歯科医師会イメージキャラクター はっぼくん



広島県歯科医師会会長
荒川 信介さん

日本人の死因第1位であるがんは、誰もがかかる恐れがある疾患です。

現在、がん治療における^{こうくう}口腔ケアの効果が注目されていることをご存じでしょうか。

がん治療には、化学療法、放射線療法、外科的手術などさまざまな治療法がありますが、

その際、お口の中に有害事象と呼ばれる困った症状（例えば、口内炎、口腔乾燥、歯肉出血、口腔感染、ヘルペス感染、カンジダ感染、歯の知覚過敏など）が発生することがあります。

こうした症状が発生すると、食事を摂ることが困難になり、ひいては低栄養に陥ったり、炎症の部分から入りこんだ細菌が、全身に広がって発熱したりするなど、がん治療自体にも悪影響を及ぼします。

がん治療の前に口腔ケアを！

このようなトラブルを防ぐには、がん治療の前に歯科健診を受け、お口の中の歯石や、細菌の塊であるプラーク（^{しこう}歯垢）を除去するケアを受けたり、むし歯や歯周病を治療しておくことが大切です。

「がん治療の前に口腔ケア!」。このことをぜひ、覚えておいてください。



錠剤の抗がん剤を飲んでできた唇の口腔粘膜炎（日歯HP「テーマパーク8020」から）

はちまるにいまる

8020運動 実践しよう

8020運動とは「80歳になっても自分の歯を20本以上保とう」という運動です。

少なくとも20本以上の歯があれば、年齢を問わず食物をかみ砕くことができ、おいしく食べられます。子どものころからの正しいデンタルケアと青年期の予防が大切です。

歯科医療は「生きる力を支える生活の医療」です。